

## 国境をはさむ地域の協調した地域開発による国際共生社会の形成

東洋大学国際共生社会研究センター（オープン・リサーチ・センター） 課題2研究グループ リーダー  
東洋大学大学院国際地域学研究科 教授 金子 彰

国際共生社会研究センターは昨年4月より新たな研究の枠組みをもって3年間研究を継続することになりました。新たな研究の枠組みとしては、これまでの5年間の研究成果を今最も必要とされている対象に適用し研究をさらに発展させていこうとするものです。それが「課題2 国際共生社会形成のための新たなパラダイムに関する研究」ですが、その対象としては、一つは紛争終結国などの変遷・移行期における共生社会実現のための研究<重点要支援段階>であり、もう一つは重点要支援地域における共生社会実現のための研究<重点要支援地域>です。

重点要支援地域を対象とする研究の中には一つの国の中にとどまらず、東アジアといった広域的な地域においていかに国際的な共生をはかるかということが含まれています。このような課題については国と国のレベルで政治的な枠組み調整していくアプローチがひとつあります。一方で国境をはさむ地域同士で協調した地域開発を行うことから出発するボトムアップ的なアプローチがあります。すでにEUやASEAN地域においては取組が始められています。EUにおいては域外国もふくめた国境をはさむ地域の一体的な開発計画がたてられ実施に移されています。ASEANにおいてもたとえばベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーをつなぎ連続した発展のた



国境貿易で栄える中国-モンゴル国境のまち  
(中国内モンゴル自治区二連市)

めの回廊をつくろうとしています。そのためのインフラの一つとしてメコン川をわたる橋がわが国の援助により昨年末開通しました。さらにわが国で今検討が進められている新しい国土形成計画においても東アジアと連携していくことが重要な課題になると考えられています。

われわれの住む東アジアでは、まだ一体となった地域開発が機能するための条件が整っているとは言いがたいのですが、国際共生社会形成を通じて地域の安定と発展をはかるため、このような国境をはさむ地域の協調した地域開発のための研究をすすめていくことが重要と考えています。

## 2007年度 国際シンポジウムのお知らせ 交通からの環境共生社会への途

—Environmentally Sustainable Transport : EST—

東洋大学国際共生社会研究センター（オープン・リサーチ・センター） 課題1-2 リーダー  
東洋大学大学院国際地域学研究科 教授 太田 勝敏

国際共生社会研究センターは、2007年（平成19年）7月6日（金）午後、東洋大学白山キャンパスにおいて国際シンポジウム「交通からの環境共生社会への途—EST」を開催する予定です。パネリストに国内外から著名な研究者や実務担当者をお招きし、世界のベストプラクティス都市を紹介し、環境共生

社会実現に向けた交通システムのあり方などを議論します。また、シンポジウムの詳細を議論する場として翌7月7日（土）に東洋大学白山第2キャンパスにおいてワークショップも開催します。詳細については次号ニュースレター、ホームページをご覧ください。